



NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

2025.10.15 No.73

発行人 飯田 慶雄
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
https://www.toukenkumiai.com/

第73号編集担当 赤荻 稔 飯田 慶雄
伊波 賢一 大西 康一 大平 岳子 嶋田 伸夫
清水 儀孝 生野 正 新堀 孝道 土子 民夫
網取 謙一 土肥 豊久 服部 暁治 深海 信彦
松本 義行 冥賀 亮典 持田 具宏 吉井 唯夫

人間国宝(重要無形文化財保持者)の誕生を待つ

この六月に公開された映画『国宝』が瞬く間に爆発的なヒットとなり、吉田修一の原作も上下巻合わせて百数十万部を記録、その影響は歌舞伎への関心の高まりに昇華しているとい

『重要無形文化財の指定と認定』国は、無形文化財のうち重要なものを重要無形文化財に指定し、同時に、これらのわざを高

世紀エヴァンゲリオン』で火が付き、『刀剣乱舞』でいわゆる平成の刀剣ブームが起り、『鬼滅の刃』へと続いた。愛好家や一部のマニアしか知り得なかった諸作品が広く知られるようになり、各地でさまざまな展示会が開催され、そこに実に多くの観客が訪れた。クラウドファンディングを活用した熱心な支援も一部で行われた。これらの全てが一過性であったとは言えず、定着し、今、実りをもたらそうとしている部分もある。

★人間国宝決定の流れ
調査
↓
文部科学大臣
↓(諮問)
文化審議会(文化財分科会)
↓(答申)
文部科学大臣
↓(指定・認定)
官報告示・通知

『重要無形文化財(肥後象嵌・透)』保持者 米光光正作
しかし、全体として、いつの間にか頭上を通り過ぎていったという印象は否めない。それは、いわゆるブームを、資源として取り込み、問題解決のきっかけにさえできなかったというわれわれ自身の反省でもある。斯界に危機は依然としてあり、むしろ深ま

★無形文化財への支援
昭和二十五年制定の文化財保護法に基づき、建造物や絵画などの有形文化財とともに保存・活用の対象とされる演劇・音楽・工芸技術その他の無形の「わざ」。無形の文化財は、人間のわざそのものであり、具体的にはそのわざを体現・体得した個人または個人の集団によって表現される。

この六月に公開された映画『国宝』が瞬く間に爆発的なヒットとなり、吉田修一の原作も上下巻合わせて百数十万部を記録、その影響は歌舞伎への関心の高まりに昇華しているとい

重要無形文化財の指定と認定
毎年一回、重要無形文化財保持者の死亡による認定の解除数、芸能および工芸技術の分野の実態などを踏まえ、有識者二十



重要無形文化財(肥後象嵌・透) 保持者 米光光正作

重要無形文化財の指定と認定
国は、無形文化財のうち重要なものを重要無形文化財に指定し、同時に、これらのわざを高



重要無形文化財(肥後象嵌・透) 保持者 米光光正作

重要無形文化財の指定と認定
国は、無形文化財のうち重要なものを重要無形文化財に指定し、同時に、これらのわざを高

大阪刀剣会 吉井唯夫
美術刀剣、小道具、武器類の売買、加工及び御相談承ります
大阪市中央区日本橋二丁目一

刀剣・小道具・甲冑武具 飯田高遠堂
代表取締役 飯田 慶雄
〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-33

アオバ企画(株) 高橋一
〒130-0012 墨田区大平四一九二二一三〇八

江戸屋 店主 小暮 昇一
名品・名刀を販売
〒529-1315 滋賀県愛知郡愛荘町香掛80-1

古銭・切手・刀剣 売買取引 評価鑑定
(株)城南堂古美術店
代表 田中勝憲
〒153-10051 東京都目黒区上目黒四一三一〇

参考/文化庁『ヒトが伝える伝統の「わざ」重要無形文化財—その「わざ」を保持する人々』文化庁文化財保護部伝統文化課編集『日本のわざと美—重要無形文化財とそれを支える人々』

# 刀剣界が生んだ人間国宝

## 〈日本刀〉

**高橋貞次**（たかはし だつぐ、本名金市）

明治35年（1902）4月14日生～昭和43年（1968）8月21日没

昭和30年（1955）5月12日認定

愛媛県西条市に生まれる。大正6年（1917）高等小学校を卒業後、当時帝室技芸員であった月山貞一・貞勝父子に入門して刀鍛冶の修業を始めた。大正9年には中央刀剣会養成工になり、古刀の研究に努め、養成課程修了後、郷里伊予西条に帰り作刀活動に入った。昭和10年（1935）、第1回新作日本刀展覧会で総理大臣賞を受賞し、大日本刀匠協会審査員に推挙された。翌11年に愛媛県松山市道後に鍛刀場を設立し、同15年に鎌倉八幡宮御神宝の太刀、同16年に水無瀬神宮御神宝の太刀、戦後の昭和26年には伊勢神宮式年遷宮御神宝太刀の製作を行った。昭和30年には第1回作刀技術発表会で特賞を受けた。大和、山城、備前、相州、美濃の各伝法に通じ、特に備前伝、相州伝に優れた作品を発表した。

**宮人行平**（みやいり ゆきひら、本名堅一、刀匠銘の昭平を晩年行平に改名）

大正2年（1913）3月17日生～昭和52年（1977）11月24日没

昭和38年（1963）4月24日認定

長野県坂城町に生まれる。尋常高等小学校卒業後、家業の野鍛冶に従事し農具、刃物の製作を行ったが、祖父小左衛門が刀鍛冶であったことから刀鍛冶の道を志すようになった。昭和12年（1937）24歳の時、上京し、赤坂氷川町で栗原彦三郎昭秀が主宰する日本刀鍛錬伝習所に入門。昭和15年、第5回新作日本刀展覧会で総裁名誉賞を受賞し、その後、海軍大臣賞、最高名誉賞、文部大臣賞、さらに同18年に陸軍省主催日本刀展覧会で会長賞を受賞し、早くから活躍した。戦後は昭和26年、伊勢神宮式年遷宮御神宝の太刀を製作。同30年、第1回作刀技術発表会で特賞、以後5回まで連続して特賞を受けた。相州伝を加味した美濃伝を得意とし、信州の先輩源清磨に私淑した作品を多く発表し、特に卸し鉄の技法に優れ、古名刀に見るような美しい地鉄の刀を作った。

**月山貞一**（がっさん だいち、本名昇）

明治40年（1907）11月8日生～平成7年（1995）4月1日没

昭和46年（1971）4月23日認定

大阪府大阪市に生まれ、幼少の頃より父貞勝および祖父貞一の下で伝統的作刀法を学んだ。上京して中央刀剣会に入会し、その養成工として修業しながら日本刀全般の研究・製作に専念した。昭和41年（1966）には、それまで刀匠銘を貞光、貴照と号していたが、奈良県桜井市三輪神社で二代月山貞一を襲名した。日本美術刀剣保存協会、毎日新聞社共催の新作名刀展に「槍・日本号（模作）」を出品して文化財保護委員会委員長賞・正宗賞を受賞。さらに、その後も連続して同展特賞、最高賞の正宗賞を受賞するなど、刀匠として優れた実績を残した。以来、同展の無鑑査、審査委員として後進を指導してきたほか、「日刀保たたら」の復興および玉鋼再生産の実現に奔走した。習得した技法の範囲は大和、山城、備前、相州、美濃の各伝に及ぶが、この伝統的な五カ伝の鍛法中、特に相州正宗・貞宗や大和手掻派の包永等の作刀法を得意とした。また奥州の月山鍛冶の流れを汲む家伝の綾杉鍛えに特色がある。刀身彫刻の面でも帝室技芸員であった祖父の仕事に匹敵する程の手並を見せ、江戸時代の名工であった一竿子忠綱や栗原信秀の作域に迫るものと評価された。

**隅谷正峯**（すみたに まさみね、本名與一郎）

大正10年（1921）1月24日生～平成10年（1998）12月12日没

昭和56年（1981）4月20日認定

石川県松任市に生まれ、立命館大学理工科卒業と同時に、当時、立命館日本刀鍛錬研究所長であった刀匠桜井正幸に入門して作刀の手解きを受ける。昭和17年（1942）独立。その後、広島県尾道市内の興国日本刀鍛錬所で刀剣製作に邁進した。古名刀を手本に独力で

備前伝、相州伝、山城伝、大和伝および美濃伝、いわゆる五カ伝の伝統的作刀法を習得している。中でも備前伝の作刀法については、進んで研鑽を積み、鎌倉中期の備前伝の伝承に努めた。特に鎌倉中期の一文字派、長船派の作品に見られるような勾深い華やかな大丁子乱、重花丁子乱の刃文や地に現れる特有の映りの研究を行い、大きな成果を上げた。日本美術刀剣保存協会主催の作刀技術発表会では、その卓越した技量が高く評価されるとともに、昭和40、41年と同協会共催新作名刀展で特賞・正宗賞を連続受賞。翌42年からは同展無鑑査、審査委員を歴任して後進の指導にも尽力した。

**天田昭次**（あまた あきつぐ、本名誠一）

昭和2年（1927）8月4日生～平成25年（2013）6月26日没

平成9年（1997）6月6日認定

新潟県に生まれる。刀匠であった父貞吉の没後、昭和15年（1940）、13歳で栗原昭秀が主宰する日本刀鍛錬伝習所に入門。戦後は、古名刀を手本として独自に山城伝、備前伝、相州伝の各鍛法を修め、中でも相州伝および鎌倉時代の地鉄の研究に努め、日本刀の製作技術を高度に体得した。特に、独自に研究した自家製鉄による鉄を用いて鎌倉時代の相州伝の伝承に努め、高い評価を得ている。作刀技術発表会、新作名刀展で受賞を重ね、昭和52年に山城伝、同60年に備前伝、平成8年（1996）に相州伝の作品でそれぞれ正宗賞を受賞。また、全日本刀匠会理事長等を歴任し、文化庁主催美術刀剣刀匠技術保存研修会講師を務め、後進の指導にも尽力した。

**大隅俊平**（おおすみ としひら、本名貞男）

昭和7年（1932）1月23日生～平成21年（2009）10月4日没

平成9年（1997）6月6日認定

群馬県に生まれる。昭和27年（1952）から宮入昭平に師事して作刀技術を学び、同32年、作刀活動に入った。その後は、古名刀を手本として、山城伝や、備中青江伝の「直刃」一筋に研究研鑽に努め、日本刀の製作技術を高度に体得した。中でも、日本美術刀剣保存協会による「日刀保たたら」産の玉鋼を材料に用い、備中青江伝の直刃の刃文を焼き、高い評価を得ている。昭和33年第4回作刀技術発表会に初出品して優秀賞を受賞し、その後も受賞を重ね、同47年からは新作名刀展無鑑査、以後同展において49年、51年、53年の3回の正宗賞をはじめ、多くの賞を受賞している。また、同展審査員を歴任するなど後進の指導にも尽力した。

## 〈刀剣研磨〉

**小野光敬**（おの こうけい、本名清之助）

大正2年（1913）7月30日生～平成6年（1994）6月29日没

昭和50年（1975）4月23日認定

岩手県盛岡市に生まれる。昭和4年（1929）、16歳で研師石川周八の弟子加藤勇之助に入門、その後、同13年から18年まで本阿彌光遜に師事した。戦後の昭和22年に東京国立博物館刀剣室に入り、刀剣の保存のための研磨を行った。この間、昭和23年日本美術刀剣保存協会主催の研磨技術発表会で優秀賞を受賞し、その後も受賞を重ねた。また四天王寺所蔵の国宝丙子椒林剣、正倉院御物の刀剣の保存修理研磨をするなど、多くの刀剣研磨を手がけた。

**本阿彌日洲**（ほんあみに っしゅう、本名猛夫）

明治41年（1908）2月23日生～平成8年（1996）7月12日没

昭和50年（1975）4月23日認定

東京に生まれる。幼少の頃から、名研師と謳われた父平井千葉に家業の刀剣の研磨、鑑定の手解きを受ける。その後、本阿彌平十郎成重の子・本阿彌琳雅に師事して刀剣鑑定法を習練した。本阿彌家の養子となって室町時代から続く名家・本阿彌家を継ぐ。内務省神社局の命により、伊勢神宮内陣や明治神宮内陣の宝刀を研磨、さらに、文部省からの命により、神社仏閣蔵の国宝、重要美術品刀剣の研磨に従事した。戦後、長く刀剣登録審査委員を歴任し、研師の立場から日本刀の姿、平肉の置き加減、帽子の形、焼刃の処理など幅広く現代刀匠の刀剣製作に助言を与え、指導した。古刀から

現代刀に至る研磨の卓越した技量を示し、特に相州物、山城物などの各伝の刀剣類の研磨を得意とした。刀剣鑑定の道でも精進し、また後進の指導にも尽力した。

**藤代松雄**（ふじしろ まつお）

大正3年（1914）4月21日生～平成16年（2004）6月12日没

平成8年（1996）5月10日認定

東京に生まれる。14歳から父藤代福太郎に師事して家業の日本刀研磨の技術を修め、それぞれの刀の鍛刀法の特質を生かす刀剣研磨技術を体得し、数々の刀剣類を研磨している。この間、昭和23年（1948）以来、日本美術刀剣保存協会主催の研磨技術発表会で優秀賞、特賞を重ね、同31年に無鑑査、43年から同協会の研磨技術研修会講師として後進の指導に当たった。特に大太刀の研磨を得意とし、日光二荒山神社所蔵・重要文化財大太刀（衾々切丸）、岡山県吉備津神社所蔵・大太刀（吉備津丸）などを研磨した。また刀剣の研究も行い、『名刀図鑑』（昭和26～35年）を刊行した。

**永山光幹**（ながやま こうかん、本名茂）

大正9年（1920）3月21日生～平成22年（2010）3月22日没

平成10年（1998）6月8日認定

神奈川県に生まれる。14歳から本阿彌光遜に師事して日本刀研磨の技術を修めた。明治時代に本阿彌平十郎成重によって完成された現代的な研ぎを高度に体得し、五カ伝各伝の古刀から現代刀に至る幅広い分野の刀剣研磨を手がけ、高い評価を得ている。昭和30年（1955）、日本美術刀剣保存協会の研磨技術等発表会において無鑑査となり、同発表会の審査員等を務めたほか、昭和36年には日本美術刀剣保存協会貴重刀剣審査員、同協会研磨講習会講師となり、同47年以来、同協会主催の新作名刀展の審査員を歴任している。また、永山美術刀剣研磨研修所を運営し、数多くの刀剣研磨師を育成したほか、刀剣の研究も行い、『刀剣鑑定読本』（昭和54年）を刊行した。なお、同書は翻訳され、海外にも紹介されている。

**本阿彌光洲**（ほんあみ こうしゅう、本名道弘）

昭和14年（1939）4月26日生～

平成26年（2014）10月23日認定

東京生まれ、昭和37年（1962）、國學院大学卒業と同時に父本阿彌日洲に師事し、刀剣研磨、鑑定学を学ぶ。昭和46年、日本美術刀剣保存協会の研磨技術等発表会無鑑査、同61年、文化庁より文化財刀剣修理技術者に認定される。平成2年（1990）、銃砲刀剣類登録審査委員。同5年、日本美術刀剣保存協会より研磨技術等発表会審査員を、6年、新作刀展覧会審査員を委嘱される（平成18年まで）。8年、文化庁より接収刀剣類処理検討会議専門委員を委嘱される。12年、美術刀剣研磨技術保存会会長に就任。13年、宮内庁より皇太子殿下御守刀の研磨監修を委嘱される。20年、東京都指定無形文化財保持者に認定される。22年、公益財団法人日本刀文化振興協会理事長に就任。24年、文化庁補助事業によりふくやま美術館寄託小松コレクション国宝太刀則房・正恒、重要文化財刀無銘来国光の研磨修理を委嘱される。25年、文化庁補助事業により永青文庫所蔵国宝太刀豊後国行平、国宝太刀金象嵌銘光忠光徳花押の研磨修理を委嘱される。

## 〈肥後象嵌・透〉

**米光光正**（よねみつみつまさ、本名太平）

明治21年（1888）5月1日生～昭和55年（1980）3月29日没

昭和40年（1965）4月20日認定

熊本市に生まれる。14歳より祖父・田辺伊平に師事し、次いで明治35年（1902）に同じ肥後象嵌師であった叔父田辺吉太郎について布目象嵌や鉄の透彫と色上げなどの肥後金工技術を修得し、幕末の肥後金工神吉派の伝統を継承した。明治の廃刀令以後、肥後金工は衰退したが、その中において、肥後金工の技術を支え、昭和3年（1928）には大礼記念京都大博覧会で銅牌、昭和36年には熊本日日新聞社熊日社会賞を受けるなど制作活動に励んだ。花形や海鼠形の透しの鉄鐔に金・銀などの布目象嵌などで二重唐草、菱文繫、渦巻などの伝統的文様を施して優れた作品を発表した。

刀剣業界の情報紙である『刀剣界』では、記事を募集しています。ニュースや催事情報、イベント・リポート、ブック・レビュー、随筆・意見・感想など、何でも結構です。写真も添えてください。組合員・賛助会員以外の方も歓迎です。ただし、採否は編集委員会に諮り、紙面の関係で編集させていただくことがあります。

## 「大刀剣市」開催迫る

第37回「大刀剣市」は、来る11月1日(土)・2日(日)、東京新橋の東京美術倶楽部において開催します。入場料2,500円(2日間、美麗出品目録を含む)。お問い合わせ・お申し込みは当組合まで。

### 出店一覧

No.	名 前	屋 号
1	深海 信彦	銀座 長州屋
2	瀬下 昌彦	銀座 丸英
3	福岡 勇仁	三明貿易・刀剣徳川
4	黒川 精吉	霜剣堂 黒川
5	旗谷 三男	刀剣 はたや
6	川島 貴敏	銀座日本刀ミュージアム 泰文堂
7	伊波 賢一	日本刀剣
8	村上 和比子	コレクション情報
9	村上 竜太	ギャラリー翠篠
10	大平 岳子	勝武堂
11	朝倉 忠史	永和堂
12	橋本 建一郎	蔵屋はしもと
13	柴田 和光	日本刀 柴田
14	村上 昌也	京都むらかみ
15	鈴木 雅一	平成名刀会
16	藤田 一男	神田 藤古堂
17	清水 儀孝	晴雅堂 清水
18	芦澤 一幸	静心堂 芦澤
19	柴田 光隆	銀座刀剣柴田
20	木村 義治	木村美術刀剣店
21	安東 孝恭	安東貿易
22	生野 正	銀座誠友堂
23	齋藤 恒	銀座 盛光堂

No.	名 前	屋 号
24	草分 一雄	古美術 草分堂
25	ヒューズ・ロバート	慶長堂
26	横山 忠司	札幌 横山美術
27	田澤 二郎	日宝
28	中永 善之	美術刀剣みらい
29	坂田 哲之	刀剣 坂田
30	深津 尚樹	尚佳洞
31	持田 具宏	もちだ美術
32	古屋 祐介	一文字商会
33	松本 義行	美術刀剣 松本
34	佐孝 宗則	紀の国屋
35	平子 誠之	イー・ソード
36	五十嵐 啓司	南濃州堂
37	嶋田 伸夫	古美術刀剣 山城屋
38	冥賀 吉也	つるぎの屋
39	飯田 慶雄	飯田高遠堂
40	高島 吉童	刀剣 高吉
41	旗谷 大輔	日本刀 旗谷
42	服部 暁治	服部美術店
43	清水 敏行	大宮 清水商会
44	松川 浩一郎	古美術 成蹊堂
45	木村 由利子	株永楽堂
46	吉井 唯夫	大阪刀剣会 吉井

No.	名 前	屋 号
47	猿田 慎男	(株)むさし屋
48	新堀 孝道	新堀美術刀剣
49	山本 一郎	刀友会
50	大西 康一	大和美術刀剣
51	今津 敦生	儀平屋
52	玉山 真敏	玉山名史刀
53	佐藤 均	刀剣佐藤「倉敷刀剣美術館」
54	土肥 豊久	(株)和敬堂
55	三浦 優子	優古堂
56	稲留 修一	舟山堂
57	高橋 歳夫	真玄堂
58	杉江 雄治	杉江美術店
59	黒川 宏明	筑前刀剣堂
60	網取 譲一	福隆美術工芸
61	モリーナ 令	ギャラリー陽々
62	長谷川 康治	刀剣はせ川
63	山田 基洋	三刀流
64	矢澤 隼	矢澤商会
65	宮崎 昌幸	(株)シカゴレジメンタルス
66	中村 圭佑	刀箱師
67	栗原金庫	書籍コーナー
		全日本刀匠会コーナー

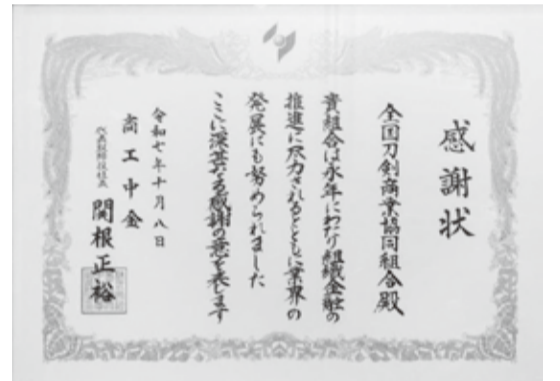
## 商工中金から感謝状が贈られる



去る10月8日、全国刀剣商業協同組合(刀剣組合)に対し、商工組合中央金庫(商工中金)より感謝状が贈られました。

商工中金と当組合とは設立以来、長年にわたり良好な取引関係を築き、業界の健全な発展に尽力してまいりました。感謝状には「貴組合は永年にわたり組織金融の推進に尽力されるとともに、業界の発展にも努められました。ここに深甚なる感謝の意を表します」と記されています。

当日は、商工中金本店営業部の土屋真氏がわざわざ感謝状を持参され、当組合の飯田慶雄理事長に直接授与されました。同席した組合関係者は、これまでの活動を振り返りながら、業界の発展に向けて一層の努力を重ねる決意を新たにしました。



## 「登録証問題」を考える 35

### 事例 49 デジタルカメラで撮影しているのには?

本欄では、刀剣の登録審査の際、茎をデジタルカメラで撮影し、データとして保存してはどうか、とたびたび提言してきた。それを受けてなのか否かは不明ながら、デジタルカメラを導入する教育委員会が少なからず存在することも紹介している。

ちなみに千葉県ではデジタルカメラを使って茎を撮影しており、また東京都でも、他県からの現物確認審査の場合に限り、デジタルカメラで茎を撮影していることも確認している。

さて、今回入手した刀は、表裏にわたって長銘が刻されている。登録証には小さな字でびっしりと銘文が書かれている。

見ると「肥後赤坂太郎兼元以東京栗原昭秀住鍛之」とある。「赤坂太郎? 赤松太郎は知ってるが...。栗原昭秀は、日本刀を二度蘇らせたって人だね。昭秀住? 住み込みの弟子か? わからん」という感じで読み進み、そして茎を見てみると、案の定、読み違えであった。

茎の銘文は「肥後赤松太郎兼元「栗原昭秀伝」であった。一般の方ならいざしらず、こういう銘文に親しんだ人なら読めるはずであ

る。

裏銘も読めないところが「岩戸念」「大菩薩」「刀之」と口になっている。これも現物を見ると「岩戸祈念」であり、「大菩薩」の下の口もサンズイに卒で、「淬」と読める。祈念も淬も読めなくはないと思うし、淬も水心子正秀をはじめとする刀工の茎の銘文にまみえる文字である。

ともあれ、この登録証を交付した千葉県教育委員会に電話してみた。担当者に文字の誤読と読めなかった部分の文字の読みを伝えるところ、「確認の上、折り返しお電話します」ということになった。筆者は樂觀していた。なぜなら千葉県はデジタルカメラ導入県の一つであったから。きっと大丈夫だろうと思い、他の仕事をしながら待っていた。しかし千葉県の回答は「わかりません」だった!

私「お宅の県は確かデジタルカメラで撮影してますね? わからなくてどういことですか?」

担当者「表の側の文字についてはおっしゃる通りと思いましたが、裏銘についてはよく見えなくて私「じゃあ、こちらから撮影して送りますよか?」

担当者「それはだめです」私「となると、もしかして、現物確認ですか?」

担当者「はい。東京都へ資料を

送り、そこで確認できます。訂正交付でしたら、お金はかかりません」私「お金はかかりませんが、時間ばかりかかりますよ」担当者「はい、申し訳ありません」

令和七年七月十五日に交付されたばかりの登録証である。筆者が記憶する限り、千葉県は寸法や銘文を複数人で確認するなど、業務はとて厳重にしていたはずだ。それなのに間違えたり、読めるは

ずの文字を不明としているのは、どういうわけなのか。しかも寸法も、登録証には四ミリほど長く記載されているではないか!。そもそもデジタルカメラの導入は、今回のようなミスがあった際、迅速に対応するためではないのか。デジタルカメラで撮影してデータ保存する、これは本当に素晴らしい試みだと思う。それなのに、まさにその時に役に立たないなんて...何ということだろう。

(登録証問題研究会)

## 組合こよみ (令和7年4~9月)

- 4月8日 組合事務所において服部副理事長が刀剣評価査定
- 16日 東京美術倶楽部において第39期第1回理事会を開催。出席者、深海理事長・伊波副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・清水専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・飯田理事・大平理事・生野理事・新堀理事・瀬下理事・松本理事・持田理事・冥賀監事・大西監事
- 17日 組合事務所において飯田理事と持田理事が刀剣評価査定
- 18日 組合事務所において服部副理事長と清水専務が刀剣評価査定
- 25日 組合事務所において大平理事と生野理事が刀剣評価査定
- 5月15日 「新組合員名簿」出来納品
- 17日 東京美術倶楽部において第38回通常総会を開催。新役員を選出。理事会において飯田慶雄理事長を選出
- 17日 東京美術倶楽部において交換会

- を開催。参加54名、出来高44,887,500円
- 30日 組合事務所において服部副理事長と清水専務が刀剣評価査定
- 6月5日 飯田理事長と伊波専務理事が日本美術刀剣保存協会を訪問、刀剣評価査定を行う
- 16日 東京美術倶楽部において第39期第2回理事会を開催。出席者、飯田理事長・清水副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・伊波専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・大西理事・大平理事・新堀理事・深海理事・松本理事・冥賀理事・持田理事・吉井理事
- 19日 飯田理事長と嶋田常務が日本美術刀剣保存協会を訪問、刀剣評価査定を行う
- 7月3日 飯田理事長・清水副理事長・伊波専務理事が警察庁生活安全局を訪問
- 3日 組合事務所において飯田理事長と網取常務が刀剣評価査定

- 10日 飯田理事長と清水副理事長が日本美術刀剣保存協会を訪問、刀剣評価査定を行う
- 25日 組合事務所において伊波専務理事と松本理事が刀剣評価査定
- 8月1日 飯田理事長が第一ホテル両国で開催された日本美術刀剣保存協会「2025年度現代刀職展表彰式」に出席
- 22日 神奈川県横浜市へ出張、刀剣評価査定を行う
- 9月5日 組合事務所において嶋田常務が刀剣評価査定
- 12日 東京美術倶楽部において第39期第3回理事会を開催。出席者、飯田理事長・清水副理事長・土肥副理事長・服部副理事長・伊波専務理事・嶋田常務理事・網取常務理事・赤荻理事・大西理事・大平理事・新堀理事・深海理事・冥賀理事・持田理事・齋藤監事・土肥富康監事
- 26日 赤荻理事と大西理事が茨城県那珂市へ出張、刀剣評価査定を行う

2025年度「現代刀職展」審査結果 [作刀の部]審査結果は前号で紹介

〈研磨平造の部〉

Table with 2 columns: Award Name (e.g., 薫山賞, 寒山賞) and Winner Name (e.g., 玉置 城二, 倉田 竜太郎).

〈刀身彫の部〉

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 薫山賞, 柳村 将之).

〈彫金の部〉

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 薫山賞, 桑野 冬照).

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 入選四席, 世羅 毅).

〈白鞘の部〉

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞, 久保 謙太郎).

〈刀装の部〉

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞, 久保 純一).

〈柄前の部〉

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 公益財団法人日本美術刀剣保存協会会長賞, 平山 直弥).

〈白銀の部〉

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 努力賞一席, 上野 宏樹).

第15回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」審査結果

作刀・刀身彫刻部門

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 文部科学大臣賞・経済産業大臣賞, 上山 陽三).

【刀身彫刻】

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 金賞第二席, 木下 宗憲).

研磨部門

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 観光庁長官賞, 阿部 聡一郎).

刀装部門

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 公益財団法人日本刀文化振興協会会長賞, 川上 登).

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 銀賞第二席, 阪井 淳政).

【白銀】

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 金賞第一席, 松川 泰典).

【白鞘】

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 金賞第一席, 古川 和幸).

【柄巻き】

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 坂城町長賞, 遠山 和康).

【鞘塗リ】

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 銀賞第一席, 小山 光秀).

【袴】

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 坂城町教育委員会教育長賞, 平山 直弥).

第9回特別公開部門「Sword Oshigata Art」部門

Table with 2 columns: Award Name and Winner Name (e.g., 優秀賞第一席, 三浦 弘貴).



受賞者の皆さんと主催関係者

(公財)日本美術刀剣保存協会 二〇二五年度「現代刀職展」表彰式

八月一日、日本刀の技と心を受け継ぐ現代刀匠・刀職たちの祭典、二〇二五年度「現代刀職展」表彰式が、第一ホテル両国において開催された。

本展は、一年間にわたって研鑽を積み上げてきた技術の粋を発表し、それを顕彰するものである。

式は厳かな雰囲気の中で始まり、最初に酒井忠久会長より、日本刀を通じて受け継がれる精神文化の意義に触れ、次代を担う刀職者たちの努力に深い敬意を表すとの挨拶が述べられた。

続いて来賓の祝辞に移り、自由民主党参議院議員で「刀剣・和鉄文化を保存振興する議員連盟」事務局長の山田宏氏が紹介された。

また、一定の水準に達したとして、研師の井上聡氏に「無鑑査」の認定書が授与された。

講評では、作刀の部を担当した上林恒平審査員が、刀身に宿る構成力と鍛造技術の巧みさについて語り、研磨の部を担当した斎藤司審査員は、研ぎの深さが刀の美しさを決定づけるとし、受賞作品の水準を高く評価した。

式締めくくりに、高松宮記念賞に輝いた木村光宏氏が代表として登壇し、受賞者を代表して謝辞を述べた。木村氏は、「日本刀は技術と精神の融合であり、今日の受賞は決して個人の力ではなく、先人たちが築いてきた伝統の延長線にある」と、謙虚に語った。

最後に閉会の辞をもって、今年度の表彰式は幕を下ろした。現代においても日本刀の文化が静かに、しかし確実に生き続けていることを感じさせる一日となった。



現代刀職展の表彰式会場

に、しかし確実に生き続けていることを感じさせる一日となった。受賞作品は八月二日から十月十三日まで、東京・両国の刀剣博物館にて展示された。

(公財)日本刀文化振興協会 第十五回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」授賞式

(公財)日本刀文化振興協会(大野義光理事長)の主催する第十五回「新作日本刀 研磨 外装 刀職技術展覧会」の授賞式が、六月七日、長野県・坂城町鉄の展示館において開催された。

本展は、刀匠・研師・白銀師・鞘師・柄巻師といった刀剣製作に携わる各分野の技術者が、伝統の継承と創意を示す場として毎年開催されている。第十五回を迎えた今回は全国各地より多数の新作が寄せられ、厳正な審査を経て優秀作品が選出された。

作刀・刀身彫刻部門、研磨部門、外装部門(白銀・鞘・柄巻)における表彰が行われ、受賞者一人一人に賞状と記念品が手渡された。

本展覧会は、あらためて十月二十五日(土)〜十一月十六日(日)、

受賞者たちは晴れやかな表情で壇上に立ち、伝統技術のさらなる発展への決意を新たにした。

最後に関係者・受賞者による記念撮影が行われ、盛会のうちに式典は閉幕。本展覧会を通じ、現代刀職の技と情熱が広く示されるとともに、日本刀文化の未来を力強く支える一歩となった。

栄えある受賞作品は、六月七日から八月三十一日まで坂城町鉄の展示館にて展示公開された。

なお、今回、文部科学大臣賞と経済産業大臣賞をダブル受賞した上山輝平刀匠は、日本刀名匠(作刀)に認定された。

東京都渋谷区の明治神宮宝物殿において「日本の匠展」として開催される。

# 甲冑の話題

(公社)日本甲冑武具研究保存会

24

## 威色目について

今回は、威の色についてご紹介いたします。

威は組紐や草摺などで札板(鉄や革でできた細長い短冊状の小札を連ねて板にしたもの)を上下に連結する手法で、「緒通し」に字を当てたものです。この威に使用される糸を威糸と言ひ、威の手法として中世以来最も多く使用されたものが毛引威です。

甲冑を彩る威の色は組糸や染草自体の色や柄のみならず、威糸の配色を一部変えることで色柄を組み出すこともあります。

以下、その組み柄の例をいくつかご紹介いたします。



① 沢瀉威



② 逆沢瀉威



③ 妻取威



④ 匂威



⑤ 裾濃威

## 【色柄で文様を作る類】

甲冑の名称に柄の内容を組み入れる際は、その地色に柄を続けて「萌葱沢瀉威」や「白糸妻取威」などとします。下記はいずれも胸・袖・草摺、時には威佩楯などに行われます。

### ① 沢瀉威

水生植物・沢瀉の葉の形を象った模様を数段にわたって表す配色。地色と異なる色で三角形を作り、さらに中央に向かって色を変えていくもの。

### ② 逆沢瀉威

上記の沢瀉威を上下逆にしたもの。逆三角形の形に色を変える。

### ③ 妻取威

沢瀉威を縦に分割し、その半分を端に寄せたもの。左右袖の前方端に逆沢瀉を半分にして寄せたものや、草摺の一部に行われることが多い。

### ④ 紋柄威

威色を替えることで、胸・袖・佩楯などに家紋や文様を表すこと。

## 【色の濃淡で柄を作る類】

上の段から裾へ向かって色の濃淡を変え、グラデーションで見せる色目の類です。淡色の最後は白とするのが基本です。例えば紫裾濃であれば上から白・薄紫・紫・白となります。白の次に黄色を入れる場合もあります。

### ① 匂威

裾から上に向けて、徐々に各段を濃い色とするもの。つまり最上段が最も濃い色、最下段が白、あるいは最も薄い色となる。

るいは最も薄い色となる。

### ② 裾濃威

匂威の一種。上から裾に向けて徐々に各段を濃い色とする。つまり最上段が白または最も薄い色、最下段が最も濃い色となる。

### ③ 群濃威

各段上下の色を揃え、横に色を変えていくもの。あるいはまばらに色糸を散らすもの。

## 【段で色を変える類】

札板の段によって色を替えるもの。色を替える部分によって「肩取」「胸取」また色も併記し「肩白」「胸白」とします。

### ① 肩取、胸取

胸・袖・胸の立拳などの上から数段を地色とは別の色で威すもの。白糸であれば「肩白」となる。また一の板を緋、二の板を白とする場合は「肩緋白威」ともする。

### ② 腰取

胸の裾から数段のみ、それに加え草摺の上から数段を地色とは異なる色で威すもの。

### ③ 裾取

草摺の裾から数段を地色とは異なる色で威すもの。

### ④ 中取

二の板・三の板のみなど、胸の中段に当たる部分のみ地色とは異なる色で威すもの。

### ⑤ 段威

ある色と白色を、各段交互に配色するもの。

### ⑥ 色々威

三色以上の色で各段の色を替えて威すもの。

(浅野太一)

## NEWS & TOPICS

### 上杉謙信の愛刀「山鳥毛」が上越市で、里帰り展示

上杉謙信の愛刀で「山鳥毛」の号で知られる国宝・太刀無銘一文字が八月十三〜二十四日の十二日間、新潟県の上越市立歴史博物館で特別展示された。観覧券は事前申込制で完売となり、市民枠と一般枠に申し込んだ三千組、計五五四七人が鑑賞することができた。山鳥毛は「さんちようもう」とも「やまどりげ」ともいひ、鎌倉時代の作で刃長は約八〇センチ。刃文が華やかで美しく、山鳥の羽毛に似ていることが号の由来とされる。



山鳥毛

母の実家は、和菓子屋であった。今はもう廃業してしまったが、地元の人気店だった。

ちなみに筆者は関西在住で、風習の違いがあるかもしれないので悪しからず。

だ弁当を持たせる。お彼岸は、「おはぎ」を供える。そして、お客様にはもう一言。「故人様の好物もいかがですか？」

それは、亡き祖父母や叔母、今は無い店を思い出し懐かしむという供養。まさしく、あの世との世が近づく時なのかもしれない。

ある時は、おはぎを作っている母のところに寄って行き、「一口ちょうだい」と。

「工+藝」京都2025 京都府・京都市が共同で推進する「京都アート月間」と連携した「CURATION FAIR Kyoto」が開催されます。

18の折々 古都 紋日には... 石井理子 筆者は奈良県在住



「工+藝」京都2025 京都府・京都市が共同で推進する「京都アート月間」と連携した「CURATION FAIR Kyoto」が開催されます。会場①：涉成園(枳殻邸)「工+藝」京都2025 9:00~21:30(最終日18:00) 会場②：大本山 妙顕寺 CURATION FAIR Kyoto

ブック・レビュー BOOK REVIEW

長大で難解な物語を味わい、楽しむ 『平家物語の合戦―戦争はどう文学になるのか』

佐伯真一／著 一三三〇円(税込) 吉川弘文館

『平家物語』は平清盛とその一族の栄枯盛衰を描いた、わが国の古典の不朽の名作である。

「祇園精舎の鐘の声、所行無常の響きあり……」の始まりの文は学校の古典の授業で憶えさせられ、いまだに忘れたい名句である。そして鹿ヶ谷の陰謀とか、義経の弓流しとか、有名な場面が教科書に登場した。暇で物好きな筆者は、いつぞやの夏休みに『平家物語』を通読したことがある。無論、途中で眠気に襲われ、気絶しながらではあったが。

不朽の名作はなぜ、われわれに睡魔をもたらすのか。それは筆者が未熟だったせいもあるが、『平家物語』そのものにも原因があるのではなからうか。

「存じのように『平家物語』は長い。そして古語で書かれていて、意味がわかりにくい。しかも、さまざまなエピソードから成り、その構成も複雑である。それ故にわれわれは今日の小説のようにはとて読めない。」

一つ例を挙げると、平重盛が神仏を前にし、わが命を縮めてその代わりに平家一族の未来永劫の繁栄を、と祈るシーン①がある。そしてシーン②からかなりの段で、平家都落ちの段がある。ここで重盛の郎党が、地中から掘り出した重盛の髑髏を手に「あなた様は、今日、この



ような事態(都落ち)を予感しているのです」と言っていて泣くのである(シーン②)。ここでシーン①を憶えていれば、「あー、シーン①はシーン②の伏線だったか」と得心し、深く感動することになるのだが、シーン①と②の間には数え切れないほどのエピソードが挟み込まれており、伏線関係に気がつくことはとても難しい(少なくとも筆者はそう感じない)。

さて佐伯真一氏はそんな難解な『平家物語』を国文学者として研究し、その成り立ちや構成を、歴史学者の研究成果をも手掛かりとして深く考察している。

多くのエピソードがパッチワークのように組み合わされて構成された『平家物語』その個別のエピソード、例えば拳兵した仁王を追う平家と守る三井寺の僧兵が、宇治川で戦う場面、三井寺の僧兵が見せたアクロバティックな戦いと足利忠綱の馬筏の話。衣笠城での三浦義明の壮絶な討死と頼朝。木曾義仲の躍進と挫折。一ノ谷、屋島、壇ノ浦の合戦の逸話……。それらを国文学者らしい切り口で読み解き、「戦争はどう文学になるのか」とのテーマに挑んでいる。

近年、『平家物語』が必ずしも史実を反映してはならず、虚構を組み込まれているのだというようにことが、歴史学者の厳しい筆致で明らかにされている。鶴越の坂落としを敗行したのが、実は源義経ではないとする説もその一つである。

佐伯氏は『平家物語』に内包されている、そうした創作・虚構を踏まえながら、『平家物語』を味わい、楽しみ、研究するという姿勢を貫いている。歴史文化ライブラリーシ

リーズの二冊ということもあり、第一線の研究に基づいた記述ながら、実に読みやすい。難しいことを簡単に平易に書く、これほど難しいことはないのだが、佐伯氏はその点、見事という他ない。本書を強く勧める次第である。

さて、佐伯氏のこの本を読みながら、筆者の脳裏にはかつて見た小柄や鐔の面影が去来していた。われわれが日々親しんでいる刀装具には、源平合戦の場面が描かれた作が少なくない。佐伯氏が紹介した宇治川橋合戦の僧兵のコミカルでアクロバティックな戦闘シーンを描いた小柄もあつた。

この小柄は、一来法師という三井寺の僧兵が、橋桁の上で平家軍と対峙する浄明房明秀の兜の上を飛び越えているシーンで、橋合戦の大きな見せ場である。



佐伯氏によれば『平家物語』にはこうしたびっくりするような場面が少なからず入れられているが、それは多様な読者の関心に応えようとする作者の意図であると述べている。

そして佐伯氏が紹介した、一ノ谷の合戦で、平家の侍大将・越中前司盛俊が源氏の猪俣則綱にだまし討ちされる話も、後藤通乗作の小柄に描かれている。

組み伏せられた猪俣はとっさに「もうこれ以上の殺生は無益でしよう? 私が頼朝公に頼んであなたを助命してもらいます」と言う。この

明らかな嘘に、百戦錬磨の勇者盛俊は「コロッと騙されてしまう。」「ならば一息入れよう」と仲良く、田圃のあぜ道で休息する盛俊と猪俣だが、

猪俣は盛俊の隙を窺い、にわかには立ち上がると盛俊を深田に突き飛ばし、首を取るのである。



滑稽にも思われる僧兵の跳躍は映像の面白さとして『平家物語』の聞き手や読者の印象に残り、猪俣と盛俊のやり取りは「勇者盛俊はなぜ猪俣の口車に乗ったのか?」という驚きと疑問を投げかけるであろう。

そして『平家物語』の中で、最も感動的で悲劇的な逸話の一つが平家盛と熊谷次郎直実の物語であろう。この逸話に取材した刀装具もまた多岐にわたるから、ということである。



後藤通乗の作の三所物である。味方の船に乗らんと海中に駒を進めている敦盛に、戻って来て我と戦え、と声をかける熊谷。この後、敦盛は戻り、熊谷は敦盛を組み伏せる。そして首を取ろうとして敦盛の顔を見てハッとした熊谷の内面で、重苦し

い葛藤が始まる……。佐伯氏は、『平家物語』のこの場面について「討つべき相手も同じ人間であり、父親がいるはずだと思っ

た瞬間に、自分の行為の非人間性が見えてしまったのである。このように、自分の行為を、全く別の角度からとらえ返す眼が文学を生む」と述べている。

敦盛と熊谷の凄絶な命のやり取り。その最中、熊谷がわが子小次郎とほぼ同年の敦盛に対し、哀惜の情を抱いたのかどうか、本当はわからな

い。だがそこに「あなたならどうした?」という問いが物語の作者によって投げかけられることにより、血なまぐさい殺し合いである戦争は、美しくも儂い文学に生まれ変わると佐伯氏は考えたわけである。

つまり人間特有の残酷な行為「戦争」が「文学」となるのは、これもまた動物にはない、共感とか同情、思いやりという、人間特有の心情が読み込まれるから、ということである。

なるほどなあ、とは思う。確かに戦争を描いた映画や文学で名作と呼ばれるものがいくつもあつた。「西部戦線異状なし」もそうだし、「大いなる幻影」も戦争の映画だった。トルストイの「戦争と平和」もしかり。ただ、現代、世界で、まさに今、展開されている戦争のエピソードが将来、果たして文学となることがあり得るのだろうかとも思う。

もし文学となるとすれば、それは勝者もしくは戦争がらみで儲けた人々の側からの回顧、戦意高揚の文学、いや、もはやAIを駆使した映像として拡散されるのだろうか。結局、戦争が文学になるのは、弓矢や太刀、刀などを使った、時代なりの敵しい命のやり取りではあつても、まだまだのどかな戦闘時代の話に過ぎない故かもしれない。

しかし、それでも当時、否応なしに戦争に巻き込まれてしまった人々からすると、とても過酷であつた。文学になるなんてとんでもない話だろう。そしてそうした人々の肉声が伝わっていることはほほほ。

佐伯氏は戦後世代であり、また佐伯氏よりさらに後に生まれた筆者も戦争を知らない。戦争を体験として知っている人たちからすると、「戦争が文学になる?」何言ってるんだ。甘いよ! 寝ぼけてるよ」と言うかもしれない。そのあたり、佐伯氏も、戦争は厳しい現実であることは踏まえてはいるはずだが、本当のところ、どう考えておられるのか、ぜひお聞きしたいものだ。

ともあれ、敦盛と熊谷の、当人たちにはどうしようもない運命は文学となり、敦盛と熊谷の物語は多くの人の胸を打ち、その魂を激しく揺さぶつた。

例えば室町時代の世阿弥をして謡曲を書かせ、江戸時代の歌舞伎の演目として上演され、日本画の名作となり、さらには天皇陛下の恩師安田元久先生の愛唱歌「青葉の笛」が作詞作曲された。そして『平家物語』に心酔した武士の需に、金工たちがその鑽技を揮い、右に紹介したような刀装具が製作された。

佐伯氏の言葉を借りれば、かくして戦争は美術品となつたということになるのだろうか。(筆者はもちろん、おそらく佐伯氏も戦争を肯定、礼賛するつもりは一切ない。念のため)

(金工作品の写真提供は株式会社銀座長州屋) 佐伯真一(さきま・しんいち) 一九五三年千葉県生まれ。八二年東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。帝塚山学院大学教授。国文学研究資料館助教授を経て、現在青山学院大学名誉教授。博士(文学)。主要著書『戦場の精神史』(日本放送出版協会)、『平家物語大事典』(共編、東京書籍)、『軍記物語と合戦の心性』(文学通信)。

た瞬間に、自分の行為の非人間性が見えてしまったのである。このように、自分の行為を、全く別の角度からとらえ返す眼が文学を生む」と述べている。

和敬堂 土肥豊久・土肥富康 〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16 TEL 0258-33-8510 FAX 0258-33-8511 http://wakeidou.com/

高吉 古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください! 連絡先 090-8845-2222 代表者 高島吉童 東京都北区滝野川7-16-6 TEL 03-5394-1118 FAX 03-5394-1116 www.premi.co.jp

日本刀・刀装具 販売・買取 創業38年 株式会社 美術刀剣 松本 代表取締役 松本義行 Tel.03-6456-0889 東京西葛西店/東京都江戸川区西葛西6丁目13-14丸清ビル4F 刀剣松本 特選

銀座日本刀ミュージアム 泰文堂 〒104-0061 東京都中央区銀座6-7-16 岩月ビル2階 (株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏 TEL 03-3289-1366 FAX 03-3289-1367 http://www.taibundo.com

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑 日本の伝統文化を彩る JAPAN SWORD CO., LTD. (株)日本刀剣 伊波賢一 Ken-ichi Inami 〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1 TEL 03-3434-4321 FAX 03-3434-4324



## 催事情報

### 東京国立博物館

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9  
☎050-5541-8600 <https://www.tnm.jp/>

#### 特別展「運慶 祈りの空間―興福寺北円堂」

奈良・興福寺の北円堂は、本尊の国宝 弥勒如来坐像と両脇に控える国宝 無著・世親菩薩立像が、鎌倉時代を代表する仏師・運慶晩年の傑作として広く知られています。運慶の仏像が安置される空間をそのまま伝える貴重な例である北円堂は通常非公開ですが、修理完成を記念して弥勒如来坐像の約60年ぶりの寺外公開が決定しました。



本展は、弥勒如来坐像、無著・世親菩薩立像に加えて、かつて北円堂に安置されていた可能性の高い四天王立像を合わせた7軀の国宝仏を一堂に展示し、鎌倉復興当時の北円堂内陣の再現を試みる奇跡的な企画です。国宝7軀のみで構成された至高の空間をご堪能ください。

会期：9月9日(火)～11月30日(日)

### 佐野美術館

〒411-0838 静岡県三島市中田町1-43  
☎055-975-7278 <https://sanobi.or.jp/>

#### 皇居三の丸尚蔵館展 「皇室の名宝―静岡ゆかりの品々とともに」



皇居三の丸尚蔵館は、皇室に伝わった美術品を保存・研究、公開する施設です。この度、静岡県ゆかりの作品を中心に48件を紹介しします。

収蔵品のうち絵画からは、竹内栖鳳や横山大観をはじめとする巨匠が描く、季節の情景や吉祥を題材とした日本画を出品。また古来重んじられた刀剣のうち、愛刀家として知られた明治天皇のもとへ旧大名家等から献上された名刀が出品されます。

静岡県は、富士山や太平洋を望む景観と温暖な気候から、皇族ご静養の地としても知られてきました。今回は、御殿場の御別邸で陶芸に親しまれた秩父宮雍仁親王の御作等ゆかりの品を、写真パネルとともに展示します。静岡県から皇室へ献上された絵画や工芸品の一部も里帰りします。

この地において皇室の名宝を紹介する初の展覧会です。伝統の技と美の結晶をどうぞご覧ください。

会期：9月27日(土)～11月3日(月)

### 関鍛冶伝承館

〒501-3894 岐阜県関市若草通3-1 ☎0575-22-3131  
<https://www.sekikaji-mus.com/>

#### 日本刀の美 煌めく刃文

武器でありながら、刀匠の技が光る芸術品である日本刀。その日本刀の美しさの要素の一つである「刃文」に焦点を当てて紹介します。

会期：8月2日(土)～10月13日(月・祝)



### 仙台市博物館

〒980-0862 宮城県仙台市青葉区川内26 ☎022-225-3074  
<https://www.city.sendai.jp/museum/index.html>

#### 特別展「徳川十五代將軍展 ～国宝・久能山東照宮の名宝～」



江戸幕府を開き、天下太平の礎を築いた徳川家康。彼は元和2年(1616)、駿府城で75年の生涯を閉じ、その亡骸は遺言により久能山(静岡市)へ移されました。久能山上に創建された久能山東照宮には、家康所用の甲冑や晩年の暮らしの中で使用した品々が伝来しています。また、歴代將軍家の厚い崇敬を受けた同宮には、將軍が奉納した武器・武具のほか、歴代將軍直筆の書画類などが所蔵されています。

本展では、こうした貴重な宝物の中から、国宝2件、重要文化財31件を含む選りすぐりの名宝約100点を展示します。徳川將軍ゆかりの美術工芸品を通じて、江戸時代の武家文化の精髓をぜひご堪能ください。

会期：9月12日(金)～11月9日(日)

### 登米懐古館

〒987-0702 宮城県登米市登米町寺池桜小路72-6  
☎0220-52-3578 <https://toyoma.co.jp/facilities-kaiko/>

#### もののふの魂

私たちが一般的に思い浮かべる、反りのある日本特有の形の刀剣が出現したのは、平安時代中期頃と言われています。長い歴史の中で武器として、または家の宝として遠い先祖から受け継がれてきた刀剣は、作刀当時の姿を現在にまで伝える貴重な歴史的資料であり、現在ではさらに美術品としても国内・海外ともに高い人気を誇っています。

本展では、展示を2章構成とし、それぞれ独立したテーマで刀剣を紹介します。研ぎ澄まされた刀剣の美しさと、受け継がれる刀匠たちの技術をご堪能いただければ幸いです。

会期：9月13日(土)～11月16日(日)



### 上杉神社稽照殿

〒992-0052 山形県米沢市丸の内1-4-13 ☎0238-22-3189  
<https://uesugi-keishoden.jp/>

#### 秋の優品展「工芸品の美」

会期：7月12日(土)～11月25日(火)



会場によって休館日が異なります。事前に確認の上、お出かけください。現下の状況で入場制限や、観覧するには予約を必要とする場合もありますので、それぞれのホームページをご覧ください。

### 出羽三山歴史博物館

〒997-0292 山形県鶴岡市羽黒町手向字手向7 ☎0235-62-2355  
<http://www.dewasanzan.jp/publics/index/101/>

#### 至高の宝器 鏡と剣―鏡は蛇の目 剣は蛇の尾―

本年巳年に当たり、祖霊崇拜の山、生まれ変わりの山として信仰される出羽三山と、屋敷神あるいは祖先神として畏敬の対象とされる蛇との関わりを探るとして、羽黒山頂御手洗より出土した銅鏡84枚と当館所蔵の刀剣13振を展示しました。

会期：4月29日(火)～11月24日(月)

### 備前長船刀剣博物館

〒701-4271 岡山県瀬戸内市長船町長船966  
☎0869-66-7767 <https://www.city.setouchi.lg.jp/site/token/>

#### 特別展「刀剣は人を救う～ふなっしーの刀剣展～」



YouTubeやバラエティー番組で活躍する千葉県船橋市の非公認キャラクター、ふなっしーは、愛刀家としても知られています。刀剣でつながったふなっしーと当館の交流を特別展という形で表現し、ふなっしーが所蔵する刀剣の中から厳選した約60振を展示します(前期と後期で展示品の入れ替えがあります)。

武器としての印象が強い刀剣ですが、神器や守り刀として心の拠り所となり、長い歳月の中で多くの人々を救ってきました。

本展では、ふなっしーが刀剣に魅せられ愛刀家に至った経緯を展示を通じて紹介し、武器としてだけではなく刀剣の魅力を広く周知することを目的としています。また現代の注文打ち刀剣の魅力も伝え、現代刀の販売促進、ひいては現代刀職の支援を図ります。

ふなっしーの刀剣に対する熱い思いとともに、彼が愛する刀剣の世界を存分にご堪能ください。

なお、本展の入館料の一部は能登半島地震の復興支援として寄付されます。

会期：7月26日(土)～11月24日(月・休)

### 致道博物館

〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町10-18  
☎0235-22-1199 <https://www.chido.jp/>

#### 出羽庄内藩主酒井家 受け継がれし名品



徳川四天王の一人・酒井忠次を祖とする酒井家は、元和8年(1622)、藩主として庄内に入部し、その後250年近く庄内地方を領国経営し続けました。本年は、初代・忠次が活躍した長篠の戦いから450年の記念の年に当たります。大名酒井家に伝来したさまざまな美術品や工芸品、歴史資料などを出品し、庄内の歴史と大名家としての文化を考えます。期間中は、記念講演会や上林恒平刀匠の製作実演、「刀剣乱舞ONLINE」とのコラボレーションなど、各種イベントを予定しています。

会期：8月22日(金)～10月20日(月)

### 岡山県立博物館

〒703-8257 岡山市北区後楽園1-5 ☎086-272-1149  
<https://www.pref.okayama.jp/site/kenhaku/>

#### 宇甘でうまれた刀 雲類



昭和60年に、岡山県立博物館や岡山後楽園周辺の文化施設の集まる地域が「岡山カルチャーゾーン」と名付けられてから、今年で40周年を迎えました。これを記念し、岡山県立博物館、林原美術館、岡山城の3館で連携展示「雲の旅～備前の名刀を追って～」を開催します。

岡山県立博物館では、コーナー展示「宇甘でうまれた刀 雲類」で、雲類と同時代に作られた備前刀との比較展示を行います。

会期：8月28日(木)～11月23日(日)

### 柏原美術館

〒741-0081 山口県岩国市横山2-10-27 ☎0827-41-0506  
<https://kashiwabara-museum.jp/>

#### 特別公開「武士の魂一大小展」



会期：9月12日(金)～12月14日(日)

### 刀剣博物館

〒130-0015 東京都墨田区横網1-12-9 ☎03-6284-1000  
<https://www.touken.or.jp/museum/>

#### 受贈記念 受け継がれる日本刀 ―鈴木荘―コレクションを中心に―



本年1月に鈴木荘様より、重要文化財2口、重要美術品3口、特別重要刀剣3口を含む刀剣・刀装・刀装具16点に及ぶ、質量ともに稀に見る作品をご寄贈いただきました。鈴木様はおよそ40年にわたり日本刀や刀装・刀装具に情熱を注がれ、誠に優れた作品を蒐集されました。当館ではこの度、鈴木様の「私蔵すべきでなく多くの方々に観ていただきたい」との高尚なご意思を受け、受贈させていただきました。

本展では受贈記念といたしまして鈴木様のご寄贈品と、当館が代々木から両国へ移転した2017年以降にご寄贈いただきました作品を併せて展示しました。「作品を永く後世に残したい」というご寄贈者様の想いを汲んで鑑賞いただければ幸いです。

会期：10月25日(土)～12月21日(日)